

# NICE SMILE

2014  
**秋**  
VOL.59

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター●院外・院内広報

発行・責任者：広報誌編集委員会委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929  
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



日本の夕日百選「関西空港島」を臨む Photo by M.Yuki



**泉州救命救急センターは  
開設20周年を迎えました**

地方独立行政法人りんくう総合医療センター副病院長  
大阪府泉州救命救急センター所長

松岡 哲也

泉州救命救急センターは、関西国際空港の開港(平成6年9月4日)に合わせて、今から20年前の平成6年10月3日に開院しました。当時、大和川以南の救命救急センターは近畿大学だけで、泉州地域で発生した生死にかかわる重篤患者は近畿大学か、遠く大阪市内まで搬送されていました。泉州地域の脆弱な救急医療体制の強化と、関西国際空港での航空機事故などの災害対応のために、大阪府はりんくうの埋め立て地に府立泉州救命救急センターを開設しました。文字通り、泉州地域における救急医療の「最後の砦」として、二次救急告示医療機関で診療できない重篤な傷病者や特殊な病態に特化して診療してきましたが、超高齢社会を迎え救急搬送患者の増加や傷病構造の変化から、もつと様々な病態や重症度の傷病者にも対応するために、「救命救急医療と高度専門医療の融合」を目指して平成25年4月にりんくう総合医療センターに移管統合されました。統合後は、以前よりも多くの救急患者を受け入れるとともに、りんくうの専門診療科と協働してより高度な救急医療を提供しています。

救命救急センターには、重症救急患者に迅速かつ適切な医療を提供することや、災害時の医療救護活動以外に様々な役割

が求められます。救急医療に従事する専門職の育成や地域の救急医療体制(仕組み)を構築するのも我々の重要な使命です。泉州救命救急センターでも、救急救命士の活動手順や搬送先医療機関選定ルールの作成、救急隊の教育指導、および活動内容の検証などを行っています。泉州地域だけでも年間約4万3000件の救急搬送事例があります。一日120件に相当します。それらの救急搬送事例の中で入院を必要とする傷病者は1万2000件で、救急搬送傷病者の28%です。入院を必要とする救急搬送事例の割合は、全国平均約50%、大阪府全体で約40%程度です。泉州地域ではその割合は30%以下で、70%以上の方が入院を必要としません。入院を必要としないからと言って不必要な救急車の利用とは限りませんが、救急車や病床、救急医療に従事する人材など救急医療資源には限りがあります。我々は、地域の医療機関や消防機関と連携して確実な救急患者の受け入れ体制の確保に努めてまいります。泉州地域のセーフティーネットとしての救急医療体制が崩壊しないためには皆さんの協力が必要です。

皆さんには、日頃からご自身の健康管理に気を付け、早期に医療機関を受診して頂き、適正な救急医療資源の利用をお願いします。

### CONTENTS

表紙写真 / 「泉州救命救急センターは開設20周年を迎えました」	1	政府広域防災訓練 / 荻田医師が表彰されました	4
理事長メッセージ / 部門紹介「放射線技術科」	2	連携施設で紹介「いしもとクリニック」「あしはら薬局」	5
部門紹介「周産期センター 産科医療センター・新生児医療センター」	3	一日看護体験 / 職員清掃活動 / 編集後記 / 人権標語	6

## 理事長メッセージ

# この地域の医療と一緒に変えよう!

昨今、世界で最もホットな医療関連ニュースは、西アフリカで猛威を振るうエボラ出血熱でしょうか。感染者は1万人を超え、半数は死に至り、過去に例を見ない壮絶な環境の中、多くの国々から多くの医療人が現地入りし、献身的な活動をされている報道を聞くにつれ、一日も早い終息を願わずにはいられません。特定感染症指定医療機関になっている当院にとっては目の前に重要課題を突き付けられた状況になっていますが、それにしても、医療は生活様式や習慣を共有する「地域」で完結することの重要性を如実に示している例と言えます。

さて、視点を目の前の地域に戻し、最も大きな中期的課題といえば、少子高齢化の進行と医療費高騰に対する対策として、地域医療の大きな変貌を迫る国の医療政策であり、今年・再来年の診療報酬改定と医療法改正であるのは間違いないと思います。これらの施策の意図するところを素直に理解し、『地域医療はこの数年で大きく変貌する、それに素早く対応しなければならぬ』と理解するのではなく、『我々が我々の地域の医療を変貌させるのだ』と決意するべき状況ではないでしょうか。

当院は救命救急センターと統合して新しい急性期医療を構築しようとしています。これからも急性期医療に特化した病院として歩み続けるために、これまで以上に専門医療を充実させ、さらに応需率を上げて救急医療機能を向上させ、そして、在院日数を減少させる必要があります。その準備作業として不可欠なのは、まずは、それを支える医療人の育成と労働環境改善、そして、より強固な病々・病診連携構築であることは間違いないと思います。

本当に悩ましい時期ですが、今後とも益々、皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

地方独立行政法人  
りんくう総合医療センター

理事長

八木原 俊克



## 部門紹介①

### 放射線技術科

放射線技術科 技術科長 小西 康彦

診療放射線技師には、可能な限り少ない被ばく線量で、より安全に、より診断情報の多い画像を提供することが求められます。そのためには、撮影技術だけでなく画像の読影力も併せて向上させていく必要があります。最近、画像を利用した手術支援分野(ナビシステム・3D模型)も急速に発達しており、最新技術のフォローアップも重要となっています。放射線技師会や関連学会等の認定資格も多数存在し、当科においても多数の技師が認定資格を有しております。その中でも、「検診マンモグラフィ撮影認定技師」は、当院でいち早く取り組みをおこない、現在は乳腺撮影を担当する女性技師全員が認定資格を取得しています。



#### ■マンモグラフィ検診について

放射線技術科では、保険診療だけでなく、乳がん住民検診(日曜/年間8回)および人間ドックにて希望された方のマンモグラフィを実施しています。検診マンモグラフィの品質管理を担保するため、日本乳がん検診精度管理中央機構が審査を実施する「乳がん検診施設画像認定」を2005年に取得し、現在まで3回の認定更新を行ってきました。この施設画像認定は、装置・画質・線量が検診に適合しているかを評価しています。撮影は前述のとおり同機構の撮影技師認定を受けた女性技師のみで実施しており、自己研鑽をかねて撮影後に必ず一次読影を行い撮影技術にフィードバックをかけています。さらに、当院の撮影技師は乳腺超音波検査・MR検査、CT検査にも携わっており、幅広い知識と経験をもって乳腺検査に取り組んでいます。今後も、乳腺検査を受けられる皆様に安心して検査を受けていただけるよう、引き続き努力していきます。



部門紹介②



# 周産期センター産科医療センター

周産期センター産科医療センター長

兼産婦人科部長 荻田 和秀



平成20年度より、市立貝塚病院産婦人科との集約化の結果、泉州広域母子センターとして再編され、当科は周産期センター産科医療センターとしての機能を担って6年目になります。

婦人科手術と悪性腫瘍の化学療法は市立貝塚病院にて産婦人科医が行い、当院では夜間休日の産婦人科一次～三次救急、分娩、母体搬送、産科手術を担当しています。また、産科病棟(6階山側病棟)は平成21年より完全母児同室を開始し、お母様方が静かな環境で母乳育児ができるように面会制限も施行しています。

これにより以前にも増して小児科、内科、外科、救命センター等との緊密な連携のみならず、泉州地域の産婦人科医院との病診連携も強め、ハイリスク妊娠の集学的管理や早産児の受け入れなどもしています。対外的には地域周産期センター及びOGCS(産婦人科相互援助システム)準基幹病院、大阪府最重症妊婦受入施設となり、母体の緊急搬送受入数も毎年200件前後、産婦人科一次救急の受入は府下2位の実績があります。

外来診療体制は、産科・婦人科ともに初診再診を受けています。平成13年度より開始した助産婦外来は今後の妊産褥婦指導の中心となるべく、助産婦の特性を生かした外来づくりを行っております。また、正常妊娠・正常分娩の方にも分娩・育児していただくため、助産師外来の拡充、4D超音波の導入、妊婦さんのためのマタニティヨガやオイルマッサージなどを取り入れました。さらに、当院で分娩後すぐにアイスクリームをサービスしており、産後食としてお祝い膳もご用意しております。

今後は全国的にも注目されているこのシステムを発展させ、広域に亘る中核病院としての役割を果たせるように間断なき努力をしていきます。

Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health



# 周産期センター新生児医療センター

周産期センター新生児医療センター長

兼小児科部長 住田 裕

## ■新生児集中治療室 (NICU) について

新生児医療センターは認可NICU6床とGCU6床で、2007年には地域周産期センターに認定され泉州地区周産期医療の拠点となっています。当院小児科は新生児診療相互援助システム(NMCS)、産科は産婦人科診療相互援助システム(OGCS)に参加しています。

NMCSからは疾病新生児や早期産児の搬送を受け入れ、OGCSからは緊急母体搬送を受け入れており2001年9月以降、NICUへの早産児受け入れ基準は、在胎25週以上・出生体重500g以上としてより早い時期の母体搬送症例を受け入れております(重症先天性心疾患・小児外科疾患は受け入れておりません)。NICU入院児の実績を表に示します。

表. NICU入院数

(2013.4~2014.3)

出生体重(g)	院内出生	母体搬送	院外出生	計	IPPV	N-DPAP
<5000	0		0	0		
<1000	5	3	1	6	5	6
<1500	14	3	1	15	8	8
<2000	23	4	5	28	3	2
<2500	15	6	1	16	6	6
≥2500	22	2	33	55	8	5
計	79	18	41	120	30	27



入院対象は主に、早期産児(未熟性に基づく各病態)・呼吸器疾患(一過性多呼吸症・胎便吸引症候群・気胸・等)・感染症(肺炎・敗血症・髄膜炎・等)で赤ちゃんには併存することも多く、各病態に対する急性期の全身管理から退院前の母児のケアまで一貫して行っています。また、遠方からの緊急母体搬送後に誕生された赤ちゃんや新生児搬送で入院された赤ちゃんは状態が安定した後、ご両親がご希望の場合は近隣の病院にバックトランスファーもさせていただいております(搬送は、主に府立母子保健総合医療センターにお願いしています)。

私たちは赤ちゃんにご両親の絆の形成を援助し愛情を育める場所としてのNICUをめざしています。その一環として、お母さんご自身の母乳で退院後も育てていけるように支援し、赤ちゃんにご両親が安心して歩きだせるような環境でありたいと願い日々努力しております。



# 政府広域防災訓練

救命診療科 布施貴司



救命診療科の布施と申します。去る8月30日、関西国際空港にて政府広域防災訓練が行われました。

『九州地方で大地震が発生！』という想定で訓練が行われ、午前中に関西空港から自衛隊機C-130によって医療班(DMAT:災害医療支援チーム)を投入しました。午後には被災地から傷病者を受け入れ(こちらの搬送でも自衛隊機が使用されました)、関西空港にて傷病者の状態を安定化させたのち、府下の災害拠点病院に分散搬送を行いました。

関西の複数の病院からDMATが参集し、搬送には海上保安庁、消防局、ドクターヘリ等の複数のヘリコプターを投入した大がかりな訓練でした。

規模もそうですが、多数の見学者の皆様も来られ、成功裏に終了いたしました。

当院は空港に非常に近い全国でも珍しい病院です。今回の成功により、政府でも関西空港に有事の際は傷病者を搬送する計画が立てられています(首都直下型地震ではもう決定しています)。東日本大震災の様な大規模災害が再び日本を襲った場合には、関空に搬送されてきた傷病者全員を救命出来るよう、職員の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



周産期センター産科医療センター長兼産婦人科部長

## 荻田和秀医師が救急医療功労者として表彰されました

平成26年9月11日、一般社団法人大阪府医師会において「平成26年救急医療功労大阪府医師会表彰」が行われ、周産期センター産科医療センター長兼産婦人科部長 荻田和秀 医師が、救急医療功労者として表彰されました。

周産期医療委員会委員を務め、救急災害医療、一次救急体制の確保、OGCS(産婦人科診療相互援助システム)等の中心的医師として活動された功績により大阪府医師会より推薦されました





### りんくう医療ネットワーク 連携施設の先生のご紹介

連携施設の先生をご紹介しますコーナーです。当院では「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

## いしもとクリニック



石本 喜和男 院長

地域医療の中核に位置する  
りんくう総合医療センター諸  
先生方のリーダーシップに  
ご期待申し上げる次第です



- ① 消化器専門の専門クリニックで、外科専門医・消化器外科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医の認定を受け、外科手術症例の全国的データベース登録(NCD)にも参加しています。
- ② 特に肛門外科は泉州地域に専門施設が少ないことから、その中核となる施設を目指し、年間150例の日帰り手術を行っています。また関西では数少ない肛門機能検査でも実績をもち、高齢者の排便障害の治療・ケアに積極的に関わっています。日本大腸肛門病学会の認定施設です。
- ③ 投薬は院内投薬です。薬物有害事象は薬剤数に比例して増加する(日本老年医学会)ゆえ、くすりは5種類までを原則としています。
- ④ 健康長寿を目指す抗加齢医学(日本抗加齢医学会専門医取得)を診療現場に応用し始めています。  
100歳以上の高齢者は全国で既に6万人もおられ、人生やがて100年時代です。しかし医療が目指すべきは単なる長生きではなく、身体も心も健康で自立した(医療介護費のかからない)長寿の実現であらねばなりません。

### いしもとクリニック

大阪府泉南郡熊取町大久保西8-62 【診療科目】 内科一般、肛門科、消化器科、外科  
【TEL】 072 - 451 - 3326 【受付時間】 午前 9:00~12:00 ※水曜11:30まで  
【FAX】 072 - 451 - 3401 午後 14:00~19:00 ※水曜17:00より

### 【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	×	×

## あしはら薬局



地域の皆様の  
健康をサポート

芦原 福治 管理薬剤師



当薬局は、昭和60年9月に開局いたしました。当時はまだまだ医薬分業も行われていなく、一般用医薬品を中心とした時期でありました。平成に入り、当時の市立泉佐野病院をはじめ近隣の医療機関からの院外処方箋発行が行われるようになり、保険調剤が活発に行われるようになってきました。処方の内容(量、アレルギー、前回との比較など)チェックを薬歴管理のもとで十分に行い、調剤、監査、お薬の説明などが毎日の業務になってまいりました。また、医療・介護・福祉においても地域医療チームの一員として服薬に関する情報を医療機関、ケアマネジャー等に提供をさせていただきたいと思っております。

これからの薬局(薬剤師)は、地域の皆様方の健康をサポートし医薬品の適正使用、安全性の確保を図り地域に密着した健康情報の拠点としてまいりたいと考えております。

最後に地域の基幹病院でありますりんくう総合医療センターとの医薬連携をより強化し、地域の医師会、歯科医師会の先生方のご指導を頂きながら地域医療に貢献させて頂きたいと願っております。

### あしはら薬局

大阪府泉南郡熊取町大久保東1-1-26

【TEL】 0724 - 53 - 1690

【営業時間】 午前 9:00 ~ 午後 20:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	○	×

今年度も  
18名参加  
うち2名が  
男子生徒

# 大阪府立佐野高等学校3年生 一日看護体験に参加

平成26年  
7月31日

将来、看護師を目指しています。  
そのため、今日経験する事が、  
何か役に立つかなと思って、  
今日は参加しました。



当院では毎年、高校生は夏休み期間、中学生は夏から秋にかけて、地域の生徒さん達の看護体験を受け入れています。その中で、今年も7月31日に一般病棟各部署3人ずつ佐野高校3年生の生徒さん達の看護体験が行われました。

看護管理室の「看護体験」にファイルされている過去を見ると、平成16年から佐野高校の生徒さんを毎年、16~18名受け入れています。初期のころは女子生徒さんだけでしたが、時代の流れと共にここ数年、男子生徒さんも入ってきています。体験後、感想文を書いてもらっていますが、一日体験してみて看護師の仕事が大変な仕事だとわかったと同時に、看護師になりたい気持ちが強くなったという感想が多くみられます。はたしてその中の何人が現在、看護師あるいは医療関係者になっているのでしょうか。多くの生徒さん達が将来看護師の道に向かってくれる事を願いつつ、これからも地域の学校を受け入れていきたいと考えています。

副看護局長兼教育責任者 鈴木千晶

今から、病棟  
行ってきま〜す  
楽しみ・・・

**変身!**



5海・6海・7山・7海・8山・8海に  
3名ずつ参加です。



脈、触れる?  
あ!! わかった!



次は、  
聴診器でやってみる。  
初めて!

実際に、教えてもらいながら  
自分達で血圧測定の練習をしてみました。



笑顔になった患者さんを見た時、  
とても嬉しい気持ちになりました。

清拭を看護師と共に実施。  
おむつ交換や足浴等も実施。

## 職員清掃活動

当院では、毎月第2木曜の朝、職員による病院周辺のゴミ拾いを行っております。約60名ほどの職員が参加し、普段の掃除では行き届かないところまで清掃いたしました。

来院する皆さまに、少しでも気持ちよくご利用していただけるよう、職員一同これからも努力して参ります。



## 編集後記

朝晩めっきり寒くなって参りましたが皆様お変わりありませんでしょうか。今年は冬の豪雪に始まり、大雨、土砂災害など自然災害の多い年でした。9月末には御嶽山噴火もあり、大勢の方が犠牲になってしまいました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。

近年の登山ブームも手伝って季節を問わず登山を楽しむ方も多いのではないのでしょうか。

そこで少し火山について調べてみました。火山の定義は「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」となっています。日本には活火山は110あるそうです。幸い近畿地方にはありませんが近畿以外にも行かれる方も多いと思いますので、是非下調べを充分に行って準備をして行っていただきたいと思います。もし、噴火に遭遇した時は ①噴石と火山灰を避ける ②タオルで口を覆う ③物陰に逃げる ④ヘルメットをかぶる ことだそうです。

火山に関する情報は気象庁のHP等で入手できますので 一度ご覧いただき、秋の自然を楽しんで頂けたらと思います。

編集委員(放射線技術科) 山本有佳理

## 人権標語

人権は  
みんなが持つもの  
守るもの

